

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370204

研究課題名(和文) 大行寺信暁に関する書誌学的研究

研究課題名(英文) A Bibliographic Study of Daigyoji Shingyo

研究代表者

膽吹 覚 (IBUKI, SATORU)

福井大学・国際センター・准教授

研究者番号：70362035

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：信暁は近世後期に京大阪を中心に活躍した真宗僧侶である。本研究ではまず信暁の著書に関する書誌学的調査を実施し、信暁の著書94点166種の書誌を確認し、その成果を「大行寺信暁書誌目録」として刊行した。そして、信暁の主著である『山海里』はその第5篇以外はすべて、信暁が住職を勤める大行寺が板元を務め、第5篇は大行寺とその本山に当たる佛光寺が共に板元を担っていたことを明らかにした。また『山海里』の支配人は京都の菱屋友五郎、菱屋友七が担い、永田文昌堂がコーディネーターの役割を果たしていたことを解明した。

研究成果の概要(英文)：Shingyo was a Shin-Shuu monk who was mainly active in Kyoto and Osaka in the late early modern period. In this study, I first conducted a bibliographic examination of Shingyo's works by reviewing a 94-item and 166-variety bibliography of his works. The findings of this examination have been published as the Daigyoji Shingyo Bibliographic Index. Then, I found that the Daigyoji temple, where Shingyo served as the chief priest, functioned as the publisher for all volumes of his chief work Sankairi, except Volume 5. For Volume 5, both the Daigyoji temple and its head temple Bukkoji served as publishers. Furthermore, I elucidated that Tomogoro Hishiya and Tomoshichi Hishiya undertook the responsibility of printing and binding Sankairi, and the Nagata Bunshodo bookstore acted as a coordinator.

研究分野：日本文学

キーワード：書誌学 近世 京都 真宗 信暁 出版

## 1. 研究開始当初の背景

私は「『嫁威谷物語』の諸本と作者に関する考察」(『国語国文学』51号、福井大学言語文化学会、2012年3月)で、従来不明とされてきた『嫁威谷物語』の作者が、江戸時代後期の京都で活躍した真宗僧侶、信暁ではないかという仮説を提唱した。その後、私は「『嫁威谷物語』考 『二十四輩順拝図会』との比較を中心に」(同上52号、2013年3月)で、『嫁威谷物語』は信暁が『二十四輩順拝図会』第2巻収録「吉崎山」を改作した作品であることを論証した。

信暁の伝記については、佐竹淳如『勤王護法信暁学頭』(大行寺史刊行後援会、1936年11月)に詳しい。それによると、信暁は安永3年(1774)に美濃国不破郡の長源寺(東本願寺派)に生まれ、後に上洛して仏学を修め、真宗仏光寺派本山仏光寺の学頭に就任し、派内の僧侶に仏学を教授し、また、精力的に布教活動を行なった。晩年、彼は仏光寺門前に自坊の大行寺を創建した。信暁はまた普門律師に師事して梵暦を学び、幕末の京都で護法梵暦運動の中心人物として活躍した。安政5年(1858)死去。享年85歳であった。

信暁の著作で、今日最も知られているのは、彼の随筆集『山海里』であろう。『山海里』には彼の仏学者としての知見を述べた学問的随筆をはじめ、真宗門徒としてのあるべき姿を説いた法話、梵暦に関する随筆、当時の上方の風俗を記した記事など、多種多様な内容の随筆が収載されている。明治時代に来日したラフカディオ・ハーン(小泉八雲)が、この『山海里』に収録された作品から着想を得て、『怪談』の中の数編の作品を著したことはよく知られている。

このように信暁は幕末の京都を代表する真宗の学僧であった。彼の業績の全貌を解明することは、江戸時代末期の京都に於ける真宗僧侶の知のパラダイムを解明することにつながるはずである。信暁の研究はしかし、

前掲の『勤王護法信暁学頭』のみであるといっている。そこでまず信暁の著作をできる限り調査し、その書誌学的な研究を行ない、信暁研究の基盤を作る必要がある。本研究はそのための基礎的研究である。

## 2. 研究の目的

信暁の著作は写本として伝わるものがあるが、版本として流布した著書も少なくない。申請者が閲覧した範囲で言えば、『山海里』と『正信偈一言鈔』は大行寺蔵版だけであるが、『阿弥陀経即生篇』には本山仏光寺蔵版と京都の書肆風月堂荘左衛門蔵版の2種(ともに弘化3年)があり、『嫁威谷物語』は京都の書肆が板権を持つものと山科の西宗寺(東本願寺派)が板権を持つものがある。このように信暁の著書はさまざまなかたちで刊行されているが、本研究ではその中の大行寺版に焦点を当てる。

近世京都の真宗寺院の出版に関する研究は、佐々木求巳『真宗典籍刊行史稿』(伝久寺、1973)をはじめ、宗政五十緒『近世京都出版文化の研究』(同朋社、1982)、引野亨輔『近世宗教世界における普遍と特殊 真宗信仰を素材として』(法蔵館、2007)、万波寿子「御蔵版『真宗法要』の出版」(『国文学論叢』52輯、2008)、和田恭幸「大行寺信暁の一枚刷り」(『国文学論考』49号、2013)などがある。

これらの先行研究によると、近世京都の真宗寺院の出版に関する研究は、本願寺などの本山が手掛けた出版物に関するものが中心で、その対象は末寺の出版には殆ど及んでいない。

そこで、本研究は従来ほぼ等閑視されてきた末寺の出版、具体的には信暁が開いた大行寺(真宗仏光寺派末寺)が出版した書籍の形態的特色をはじめ、その彫師や販売店の特定、板権の移動などの諸課題の解明を通して、江

戸時代末期の京都に於ける真宗末寺の出版事情を解明することにした

### 3. 研究の方法

平成 26 年度は、まず大行寺に所蔵されている信暁関係資料の書誌調査を行なう。調査に際しては申請者が作成した書誌カードを使用し、資料はすべてデジタルカメラで撮影する。また、同年度に信暁の著書を所蔵している 12 カ所の図書館の中の 6 か所（龍谷大学附属図書館、大谷大学附属図書館、仏教大学附属図書館、金沢大学附属図書館、九州大学附属図書館、酒田市立図書館）で書誌カードによる書誌調査を実施する。27 年度は残りの 6 カ所の図書館（国立国会図書館、日比谷図書館、横浜市立大学附属図書館、弘前市立図書館、北上市立図書館、津市立図書館）で信暁の著作について書誌カードを使用して書誌調査を行なう。28 年度はこれまでの調査を踏まえて信暁著作書誌目録を作成し、学会誌等に発表する。そして、大行寺版に関する研究成果を学会で研究発表し、それを学会誌に投稿する。

### 4. 研究成果

平成 26～28 年度にかけて、信暁の著書に関する書誌学的調査を実施し、その成果として信暁の著書 94 点 166 種の書誌を確認することができた。この 94 点の内訳を記すと、板本が 43 点（一枚摺りを含む）、写本が 27 点（板本と写本が両方現存する 2 点を含む）、書名のみで書物の現存が確認できないものが 26 点であった。この成果は「大行寺信暁書誌目録」（科研費報告書、平成 29 年 3 月刊）として公刊した。

また、上記の研究成果の一環として、平成 28 年度佛教文学会（大正大学）で「大行寺信暁『山海里』の書誌学的研究 近世後期京都に於ける真宗末寺の出版」と題し、『山海

里』の板元と弘通（販売等による普及）に焦点を当てて発表した。この発表では『山海里』全 12 篇は寺版であるが、その第 5 篇以外はすべて、信暁が住職を勤める大行寺が板元を務め、第 5 篇は大行寺とその本山に当たる佛光寺が共に板元を担っていたことを明らかにした。また、寺版である『山海里』の支配人（実際の出版実務を担当する人）は京都の本屋、菱屋友五郎、菱屋友七が担い、その弘通所は京都を中心とした三都、肥前、肥後、信州に広がっていたこと報告した。そして、この弘通には京都の永田文昌堂がコーディネーターの役割を果たしていたのではないかと推測を発表した。

この発表はその後、『佛教文学』42 号（佛教文学会、平成 29 年 4 月刊）に「大行寺信暁『山海里』の書誌学的研究 近世後期京都に於ける真宗末寺の出版」と題する研究論文として掲載された。

### 5. 主な発表論文等（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

膽吹覚「大行寺信暁『山海里』の書誌学的研究 近世後期京都に於ける真宗末寺の出版」、『佛教文学』42 号、120～131 ページ、佛教文学会、平成 29 年 4 月刊、査読有り

〔学会発表〕（計 1 件）

膽吹覚「大行寺信暁『山海里』の書誌学的研究 近世後期京都に於ける真宗末寺の出版」、佛教文学会（大正大学、平成 28 年 9 月 10 日）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計0件）

〔その他〕

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

膽吹 覚（IBUKI,Satoru）

福井大学・国際センター・准教授

研究者番号：70362035